

浜松文芸館だより

No.66

公益財団法人 浜松市文化振興財団

発行 浜松文芸館(文責:鈴木)

令和2年11月

いざない

企画展 “三島由紀夫没後五十年、

【浜松の小説家 ^{あつみじょうじ} 渥美饒児のコレクション展】大好評開催中



11月1日から “三島由紀夫没後五十年、【浜松の小説家 渥美饒児のコレクション展】が開催され、たくさんの方々が浜松文芸館に足を運んでくれています。浜松市西区雄踏町在住の渥美さんが30余年をかけて収集した300点以上にわたる三島由紀夫のコレクションの中から約100点あまり、併せて渥美さんの作品を25点程展示しています

三島由紀夫は大正14年1月14日に東京で生まれました。本名は平岡公威(きみたけ)。祖母に育てられ、祖母の強い影響を受けました。小学校時代は虚弱体質で青白い顔をしていたので、ついたあだ名は「アオジロ」。最初のペンネームは「平岡青城」ですが、16歳のとき、恩師が三島から見た富士山の雪を想起して「三島由紀夫」とつけてくれたそうです。21歳の時に、文壇デビューし、『仮面の告白』『潮騒』『金閣寺』な

どを次々と発表し、小説・戯曲・評論など様々な分野で活躍しました。ライフワークとなる『豊饒の海』4部作を完成したあと、昭和45年11月25日、陸上自衛隊市ヶ谷駐屯地にて自決しました。享年45歳。直後に見つかった遺書風のメモには「限りある命ならば永遠に生きたい」と書いてありました。

渥美饒児さんは三島の遺作『豊饒の海』から「饒」の字をもらい、ペンネームとしました。今回の展示は「三島の文学」と「三島の美学」を中心におこない、三島由紀夫という人物を渥美さんのコレクションを通して紹介しています。

「浜松市民文芸 第66集」〈表彰式は令和3年3月20日(土)〉

今年度、「浜松市民文芸 第66集」児童文学の選者は那須田稔さんから那須田淳さんに変更されました。昨年度は小説や俳句の部門で高校生が入選しました。今年もたくさんのご応募ありがとうございました。コロナ感染拡大予防のため前回の表彰式は中止となりましたが、今年度は令和3年3月20日(土)、会場はアクトシティ浜松でおこないます。入選された方々とお会いできるのを楽しみにしています。

浜松市民文芸 第65集
好評販売中！ 一冊¥500
*お求めは浜松文芸館事務室まで